



株式会社 浜昭

事業内容

石油製品販売、娯楽施設業、飲食業

創業 昭和3 (1991) 年3月27日

代表者 代表取締役 飯盛 勝

社員数 48名 (男30名 女18名)

本社 島根県浜田市浅井町1508-5

電話 0855-22-1964

採用エリア (勤務地)

浜田市

採用担当者からあなたへ

地域の暮らしを支える業種を展開しています。特別な知識や経験は必要ありません。明るく元気で素直な方、目標に向かって意欲的にチャレンジしたい方を求めています。未経験者も大歓迎。

- きちんと挨拶ができる人
- 素直で物事を前向きにとらえることができる人
- 人が笑顔になることをうれしく思う人



総務部 部長 三浦 里美さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0855-22-1964

採用直通 E-mail

green@hamasyo.co.jp

公式サイトはこちら



SSリニューアルで作業環境向上
地域密着のサービスを展開

若い頃から車をいじるのが好きだった福田さん。業界歴は25年を超える。「愛車のパネ部分(サスペンション)やタイヤなどをカスタムしたことも。でも最近の車はデジタル化が進み、簡単に触れなくなりましたね」と苦笑いする。タイヤやオイル交換などの軽整備のほか、レンタカーのメンテナンスや車検受付も担当。セルフスタンドとはいえ、給油に戸惑っている顧客のサポートやトラブルへの対応も行っている。

今秋、SSがリニューアルオープン。従来屋根しかなかったピットが三方を壁で囲まれた快適な作業スペースに生まれ変わり、タイヤ交換などの整備をスムーズに行えるようになった。「雨風が強い時はびしょ濡れになっていたので、大幅に環境が改善し、作業性も向上。お客様の休憩スペースやトイレもきれいになり、喜んでもらっているのでは」

スタンドの前は道路を挟んで海。早朝に出航する漁師らの利用も多いため、午前5時にはオープンする。海風の塩分や砂が付着し、車にサビが発生しやすいことから、新設した自動洗車機では下部洗浄も行える。地域目線のサービスが特徴的だ。



セルフシーサイド原井SSサブマネジャー 福田 伸二さん(47) 2009年入社



ヘルスケアにもつながるレジャー事業
活気ある市民憩いの場を大切に

浜田市内で唯一のボウリング場と、カラオケ、ゲームコーナーといったレジャー事業に加え、レンタカーの受付も担当。ビジネスや観光だけでなく、大学生が休日や帰郷時に利用することも多いという。「一つの窓口で複数の業務を行っているので、お客様が重なった時はちょっと大変ですが、丁寧かつスピーディに対応するよう心がけています」。常連客も多く、開店直後からボウリングに訪れる人々も。新たな人気アプリクラ機器が加わり、夏休みには学生たちでにぎわった。「名前で呼んでくれるお年寄りさんがいたり、若い子が気軽に声をかけてくれたりして、和やかな職場です」。自身も学生の頃、友人らと時々JACに通っていたという。「今の子どもたちはアルバイトをしているせいか、カラオケのフードメニューを結構頼んだりするなど、私たちの時代より羽振りがいいですね」と笑う。ボウリングやカラオケは、小さな子どもからお年寄りまで幅広い年代で楽しめるのが魅力。「体を動かしたり、大きな声を出したりするのは健康にもいいものです。市民の憩いの場を大切にしていきたいです」



カラオケJACボウリング 三浦 美由紀さん(43) 2016年入社



1 JACの窓口では、カラオケ、ボウリングなどのレジャー事業に加え、レンタカーの受け付けも行っている。客層は学生からファミリー、高齢者までさまざまだ 2 「ほっかほっか亭原井店」では、旬の味わいを提供 3 設備をリニューアルし、安全性を強化した油槽所 4 地域に寄り添ったサービス展開に力を入れる飯盛社長(右)と本社員

株式会社 浜昭

多彩な事業を展開し、
地域の暮らしを豊かに

16
LEADING COMPANY

SSからレジャー事業まで
地域の災害拠点にも

人口減少や電気自動車の普及などで石油需要の縮小が現実味を帯びる中、事業の多角化や新サービス開発などに取り組み始める小売業者も少なくない。昨秋、経営陣が一斉に《株式会社浜昭》もその一つだ。ガソリンスタンド運営のほか、ボウリングやカラオケ、レンタカーなどのレジャー事業や弁当販売の飲食業も手がけ、地域住民の暮らしに寄り添ったサービス提供に力を入れる。

2022年9月、現在のウミライグループに加入。新社長に就任した飯盛社長(57)は、組織形態を整理し、一部形骸化していた給与体系や人事制度も《株式会社ウミライ》に準じた形に見直した。老朽化が目立っていたサービスステーション(SS)や油槽所の設備もリニューアル。2か所のSSにあった洗車機や計量機は、いずれも新しく取り換えた上、両SSを出光マークに統一し、共通のプリペイドカードを作って顧客の利便性を向上させた。飯盛社長は、「コストはかかりましたけど」と苦笑しつつ、「安全性の強化が最も重要。その上、きれいになってお客様に喜んでもらえれば何よりです」と笑顔を見せる。

浜田市内で唯一、海沿いと山中の2か所に油槽所を備え、地域の災害拠点として浜田市と協定を締結。東日本大震災発生時に仙台に赴任し、被害を目的とした飯盛社長には、災害時の石油エネルギーの重要性が心に強く刻まれている。「住民が避難するにも石油基地が被害に遭い、奔走しました。インフラ維持は経営的には大変ですが、我々の使命だと思えます」。給油船も保有し、地元漁船を始め、水産庁所属船舶や海上保安庁巡視船への給油も行っている。

今後の事業発展の鍵を握るのが、レジャー事業だ。コロナ禍で一時、ボウリングやカラオケの売り上げは最大5割減。新型コロナウイルスの5類感染症移行を受け増加傾向にあるが、かつての数字にはほど遠い。クレールゲームを中心に最新のアプリクラなど中高生に人気の機種を新たに設置して集客を図りつつも、従来設備の全面改修には多額の経費が必要で、目指す路線を見極めている最中だ。「レジャーは石油と違い、生きていくために必要不可欠なものではないですが、暮らしを豊かにしてくれる大切な要素。地元の若い人たちの意見を聞きながら、方向性を練っていきたい」。住民に寄り添ったサービス展開を目指している。